

2021年7月18日 聖餐式説教

本日の主日、特定11に選ばれています福音書は、五千人の給食の奇跡物語として知られている箇所です。この奇跡物語は四つの全福音書に記されているだけでなく、同様の物語である四千人の給食の物語二箇所を入れますと、全部で六箇所書かれていることになります。

主イエスと使徒たちは舟に乗って人里離れたところへ向かいました。食事をする暇もない状況が続いていたのでしばらく休むためでした。ところが群集はそれと気づき、すべての町からそこへ一斉に駆けつけて、舟が着くより先に到着したのです。その様子は飼い主のいない羊のような有様で、舟から上がった主イエスは深く憐れまれたと聖マルコは記しています。

時もだいぶたち、弟子たちは主イエスに、群衆を解散させるように言います。弟子たちは群衆に今食事が必要であることを分かっていたましたが、それは各自の責任ということにし、自分たちは関わりたくなかったのです。自分たちが連れてきたのではない、勝手に自分たちについてきたのだから、きちんと食事をできるようにしかるべき時間に帰るのは当然のことではないか、という大義名分のもとに弟子たちは群衆を解散させようとしたのです。しかし群集は飼い主のいない羊のような有様であったのです。すなわち、自分たちではどうすることも出来ない、ただ主イエスの導きと癒しを求めて必死についてくる人々だったのです。主イエスはその様子に深く憐れまれたのです。

群衆を解散させ、自分たちの責任にはならないようにしたい弟子たちに対し、主イエスは、「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい」と言われました。驚いた弟子たちは「わたしたちが二百デナリオンものパンを買って来て、みんなに食べさせるのですか」と、自分たちの力でどうしてこれだけの人を満腹させることが出来るだろうか、と自分たちがようやく手にいれた五つのパンと二匹の魚を手にして言ったのです。そこで主イエスは五つのパンと二匹の魚ですべての人を満腹させる奇跡を行われたのです。

高度経済成長が過ぎた頃から、物を持てば持つほど豊かであるという考えが問い直されてきました。物質文明を追い求めた人々は、満たされるどころか大きな渇きに、そして満足ではなく不安に陥りました。主イエスをご覧になった、飼い主のいない羊のような状況であると言えましょう。

主イエスは、「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい」と、教会の宣教の働きを通して、世界の人々が命のパンで満たされることを望んでおられます。

わたしたちはどうすべきでしょうか。弟子たちと同様に、群集を解散させてくださいと、責任から逃れようとするのでしょうか。あるいは、自分たちの力で何ができようかと言うのみになるのでしょうか。

今日の状況の中で、私たちに与えられている宣教の使命について改めて考えさせられます。命のパン、すなわち主イエスの命を私たちの中に迎え、生かすことによってこそ、主イエスはわたしたちの力をこの奇跡のように何倍も大きくし、御心にかなうものとしてくださるのです。与えられた賜物をささげて全力で宣教の業を励み、主イエスの御力がすべての人を満たしてくださることを信じて、私たちの日々の歩みを進めてまいりたいものであります。